

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	東洋大学
研究科名	経済学研究科公民連携専攻
研究科の特色	http://www.pppschoo.jp/
プログラム概要	本専攻は世界で唯一の公民連携(PPP)を専門とする大学院です。PPP とは公共サービスの提供や社会インフラの整備を行政だけでなく、民間企業、NPO/NGO、市民の連携によって行う事業手法あるいはファイナンス手法の総称です。世界ではインフラの新規開発や更新投資の需要が高まっていますが、各国の財政資金や ODA でカバーできる部分は縮小しており、PPP への期待が高まっています。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>(1) 日本が開発援助を受けて成長した経験に関する講義 Global PPPⅦ: PPP Theory (Japanese development history) PPP Omnibus Lecture Series I (Japanese development history)(2021 年度のみ)</p> <p>日本の近代化、工業化の歴史と経済発展、その中で ODA や国際金融機関等からの融資が果たした役割を講義します。①明治維新後(工業化と産業の民営化、民間主導のインフラ整備)、②戦後復興(傾斜生産、営団等の民営化)、③高度経済成長期(日本株式会社、新幹線・高速道路整備)、④バブル期(リゾート開発、第三セクター、公営企業民営化)、⑤バブル崩壊後(PPP の発展、小泉改革)、⑥現代直面する課題と議論—を取り上げます。日本は、戦後の復興期から経済成長期に世界銀行等から多くの借款を受け、高速道路、鉄道(新幹線)、発電所等を整備しました。日本におけるこれらのインフラ整備の歴史、整備手法、その後に行われた民営化の仕組みなどに着目します。</p> <p>(2) 日本が外国の開発を援助してきた経験に関する講義 Global PPP IV: Japan's ODA Global PPP VI: Japan's ODA(2021 年度のみ)</p> <p>日本の政府開発援助には、贈与より借款が中心であること、社会インフラよりも経済インフラが多いこと、アジア地域の国々への援助が多いこと、など、欧米の主要援助国と比べて、いくつかの特徴があります。このような特徴を理解するとともに、それらの特徴が生まれた背景を、日本の開発援助の歴史をたどることで理解していきます。</p> <p>さらに本講座では、現在、途上国が直面する開発課題やグローバルな課題に、日本が開発援助を通じて、どう支援していこうとしているのかについても見ていきましょう。</p> <p>一つの具体例として、日本政府が推進する「質の高いインフラ開発」について、JICA と ADB との連携で始まっている「アジア・インフラ・パートナーシップ信託基金(LEAP)」の具体例をみながら、理解を深めていきます。これは、PPP 方式でのインフラ開発にも関連するテーマでもあります。</p>
関連 URL	https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/
プログラムの	院生は、日本人の公務員、建設・不動産・金融・シンクタンクなどの在籍者が多く、学びな

魅力紹介

がら日本での人脈を形成することができます。理論だけでなく実践を重視しており、実際の PPP プロジェクトの企画を行う演習もあります。